

いにしえの人々に思いをさせて

西国街道浪漫コース

コンセプトポイント



1 長松寺

境内には「天童山老典座和尚(てんどうさんろうてんぞおしょう)と若き日の道元禅師(どうげんぜんしん)」と書かれた彫像があり、道元が24歳のとき、正法を求め宋に渡り、天童山にいた時の逸話が紹介されている。寺の前には濠があり、かかる石橋には「元禄四年(1691年)寄進念仏講」と刻まれ、この寺の歴史を物語る。

チェックポイント 境内には樹齢150年を超えるイチヨウの樹がある。



2 五社宮神社(野口神社)

神社の主神は日吉大神で、比叡山延暦寺の守護神日吉大社から分霊を迎え、のちに四柱の神を合わせ祀ったという説もある。神社の西にある教信寺は延暦寺の末寺であることから深いつながりがある1月18、19日に厄神大祭、7月28日に夏祭、10月15日に近い日曜日に例大祭を行っている。

チェックポイント 堀沿いの東側の角には、昔、西国街道を行きかう人々が目印にしていた道標がある。



3 教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来(あみだによらい)。平安時代前期の僧、教信上人(きょうしんしやうにん)がこの土地に庵を作り、庶民仏教の普及に努めた所である。幕末期に、本堂を焼失したが、明治には書写山門教寺の念仏道場を移築したのが現本堂となっている。また、教信上人の命日には、毎年、「野口念仏」と称し、会式を行っている。



4 胴切れ地蔵

その昔、西国街道を通る大名行列の前を横切った男が待たせられてしまったが、ふと気がつくとも何事もなく無事だった。そばを見回すと、普段お参りしているお地蔵さんの胴が二つに割れ、男の身代わりとなっていたという伝説が残っている。それ以降近隣の人々が「胴切れのお地蔵さん」と呼び、大切に祀っている。

チェックポイント 後ろに回ってみると、地蔵の胴体が二つにわかれていることが確認できる。



5 うだつの上がる家

うだつは元々、火事の先の延焼を防ぐために作られていたが、江戸時代中期ごろから徐々に装飾の意味合いが強くなっていった。うだつを上げるためにはそれなりの出費が必要だったことから、これがかがっている家は比較的裕福な家に限られていた。そのうだつの上がっている家が、溝之口の西国街道沿いに残っている。

チェックポイント 「うだつの上がらない」という言葉は上記のことからきている。

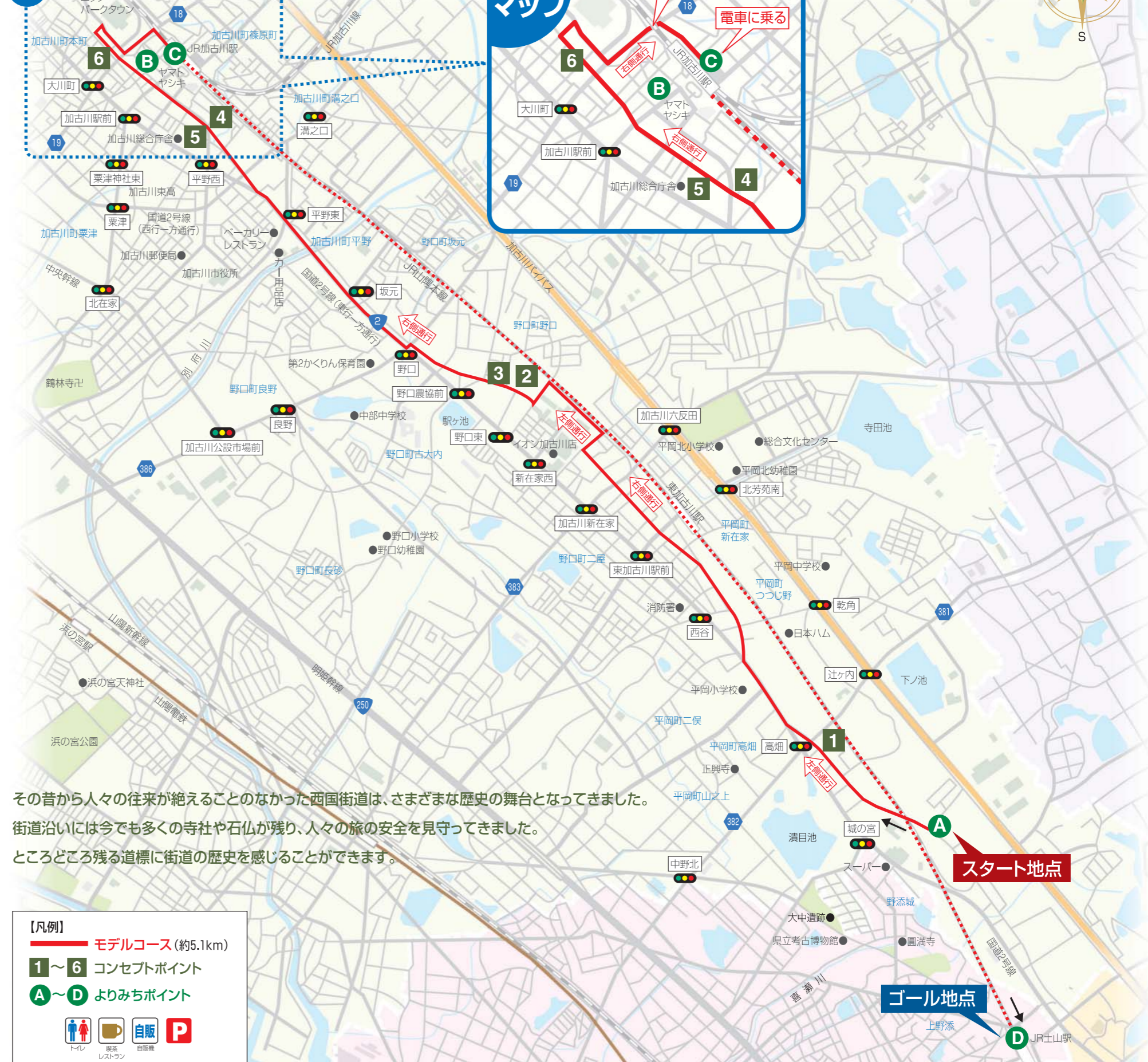


6 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。現在は寺家町商店街として賑わっている。

チェックポイント 商店街の中にある陣屋は、1752年に建てられ、参勤交代の為に西国街道を通る大名の宿泊施設として使われた。

A 詳細マップ



【凡例】

- モデルコース (約5.1km)
- 1~6 コンセプトポイント
- A~D よりみちポイント

©That's & Trial 2010

